ボッチャ①

交流の概要

ねらい：ボッチャを通して
　　①　障害の有無に関わらず、地域に暮らす児童がお互いに一緒に活動することを経験する。
　　②　障害者スポーツの理解促進を図る。
対　象：本校小学部児童、交流小学校児童
場　所：本校体育館

交流における活動や取組の工夫

・児童同士の交流が深まるように本校児童と交流校児童の混成チームでゲームを行う。
・正式ルールでは理解をすることが難しいので、本校児童に分かりやすいように大きな的と得点表を作り、ルールを簡単にする。

交流での児童・生徒の感想、様子

<特別支援学校の児童>
・体育の授業で事前に学習したことでスムーズにゲームに参加することができた。
・運動やルールを簡単にしたことで、児童にとって分かりやすく、ゲームを楽しむことができた。
・交流校児童と一緒に順番を考えたり、応援したりすることで、交流を楽しむことができた。

<交流校の児童>
・本校児童と協力してゲームに参加しようとする姿勢が見られた。
・障害者スポーツを知り、楽しんで投げている様子が見られた。
・思いやりの気持ちをもって接するなど障害のある児童に対する理解が深まった。
・得点表をつけたり、合計点を出すために計算したり、積極的に自分たちにできることをしようとしていた。

障害者スポーツを取り入れた交流活動の成果

・交流校の児童にとってボッチャと経験するよい機会になり、興味をもって楽しく活動することができた。
・児童同士が協力してゲームを行うことでお互いを知り合え、障害者理解につながる活動となった。

交流の展開例

児童・生徒の活動

○　始まりの挨拶

○　ボッチャ大会

（１）　ルール説明、見本
（２）　第２、４学年の対戦
　　第３、５学年の対戦

<赤チーム、青チーム対抗戦>

①　学年内で、本校児童と交流校児童で組む混合の赤チーム、青チームに分かれる。

②　本校教員の進行に沿って、赤チーム、青チームが順番にボールを投げる。

③　両チームが投げ終わったら待機場所に戻る。

④　赤チーム、青チームの対戦が終わったら、結果発表を聞く。

○　終わりの挨拶

教員の支援及び配慮事項

○司会は本校教員が行う。

○ルール説明の際に見本を見せる。

○チーム分けを分かりやすく伝える。

○本校児童の支援の仕方を小学生に伝え、協力して行うように促す。

○待っている時間はお互いに応援するように促す。

○本校教員はスコアを付け、ボールを回収し、次の投者に合図を出す。また、可能な児童は自分でボールを拾い、得点表にスコアを付ける。

○ボールを転がすことが難しい児童は、用意した傾斜のついた台から転がせるようにする。

○赤チーム、青チームの対戦が終わったら、本校教員が結果発表をする。

ボッチャ②

交流の概要

ねらい：肢体不自由児への理解促進を図るとともに、ボッチャを通してパラリンピックへの興味・関心の涵養を促す。
対　象：本校小学部児童、交流小学校児童
場　所：本校体育館、交流校プレイルーム

交流における活動や取組の工夫

○事前学習：学校紹介のパワーポイントを見せ、特別支援学校の学習の様子が見て分かるようにする。
表情や手足の動き、視線で応じていることを意識させ、交流できるようにする。
感想文を書き、振り返りができるようにする。
○体験活動：車いすを「押す」「押される」体験をし、介助するときの心構えがもてるようにする。
○交流活動：握手をしたり、身体に触れたりすることで、直接触れ合うことができるようにする。
チーム戦によるゲームを通して、達成感や楽しさを共に味わえるようにする。
挨拶や司会等の役割をもたせ、おもてなしの気持ちや社会性を身に付ける機会とする。

交流での児童・生徒の感想、様子

<特別支援学校の児童・生徒>
・同年代の友達との触れ合いや共同作業、活動の雰囲気を楽しむことができ、笑顔が多く見られた。
・ボッチャはこれまでも体育の授業で取組んできたので、児童たちは主体的に取り組むことができた。

<交流校の児童・生徒>
・積極的に本校児童に話し掛けたり、教員に手の動きなどを聞いたりしながら、ジャックボールが転がるようにランプを配置したり、支えたりする様子が見られた。
・得点が入ると、拍手をしたり、ハイタッチをしたりして、お互いに喜び合う様子が見られた。

障害者スポーツを取り入れた交流活動の成果

・児童の身体の動きを考えながら、ランプを配置したり、支えたりすることで、共に活動をすることができた。
・児童全員が一緒に楽しみ、喜び、身体を動かすことができることを体験できた。
・身体に障害のある人もスポーツを楽しんだり、パラリンピックで活躍したりしていることへの理解を深めることができた。

交流の展開例

児童・生徒の活動

1　事前学習（交流校児童のみ）

①　肢体不自由特別支援学校の紹介
②　ボッチャの紹介
③　ボッチャ体験

2　体験活動（交流校児童のみ）

①　車いす体験

3　交流活動

①　自己紹介
②　「コロコロボッチャゲーム」
③　歌唱「世界中の子どもたちが」
④　見送り

教員の支援及び配慮事項

○交流内容打ち合わせ、準備
・交流校の教員と実施案をもとに打ち合わせをする。
・混成チームの編成を行い、チームの色ごとに名札を作成する。

○事前学習、出前授業
・パワーポイントの資料を使い、学校紹介を行う。また、特別支援学校の特徴、学習の様子、肢体不自由の児童、生徒についてイメージがもてるように分かりやすく伝える。

○当日準備
・すぐに活動できるようにコートをラインテープやすずらんテープで貼り付け、設営する。
・ボッチャの用具をチーム別に分ける。

○ボッチャの紹介、簡単なルール説明
・パラリンピック選手の競技画像を見せイメージをもたせる。
・ボッチャの用具を使い、体験し、期待感を高めさせていく。

○活動中の支援、配慮
・本校児童への関わり方を教職員がモデルとなり、示しながら、児童同士が交流できるようにする。
・作戦や投げる順番等は、チーム内の児童同士で考えさせ、協働による活動ができるようにする。

○振り返り
・事前学習の振り返りを行い、学んだこと、できるようになったこと、友達から学んだこと、感想などをワークシートに記入し活動を振り返る。

Go　To　チェア

交流の概要

ねらい：①　同じ地域で生活する同世代の仲間とともに活動し、お互いに理解を深める。
　　②　卒業後の生活を見据え、社会の中でともに協力していくための力を付ける。
対　象：本校高等部生徒　　都立高等学校生徒
場　所：本校体育館

交流における活動や取組の工夫

内容：本校生徒が考案したスポーツ＊「GO　TO　チェア」を中心とした交流を行う。
＊「GO　TO　チェア」とは、イスの下をボッチャのボールで通すゲート型スポーツ、椅子の種類と距離で得点を競う競技である。

主な交流：
○チーム名を決めて発表し、ゲームを開始する。
○交流校の生徒には、グループ内の生徒の介助を可能な範囲で依頼し、交流を深める。
○交流校の生徒に、全体交流が終わったあと、交流の様子や「GO　TO　チェア」の競技について感想を発表してもらう。

交流での児童・生徒の感想、様子

<特別支援学校の生徒>
・交流校の生徒に親しみをもって視線を向ける生徒もいた。
・事前の練習の成果もあり、ゲームでは、やり方を覚えている生徒が多く、交流校の生徒と一緒に競技を楽しむ様子が見られた。
・得点が入ると、交流校の生徒と一緒に歓声をあげて喜んでいた。
<交流校の生徒>
・車いすの位置取りを調整したり、シュートの介助をしたりする様子が見られた。
・交流の終了後には、「両校の生徒が分け隔てなく楽しめるゲームでした。得点が入った時、みんなも盛り上がることができ楽しかったです。」と感想を述べていた。

障害者スポーツを取り入れた交流活動の成果

障害者スポーツとしてある既存のスポーツ「ボッチャ」のボールや学校の中にある身近な物（パイプ椅子・丸イス）を活用して行う、ゲート型スポーツが、生徒たちの実態に合い、「またやってみたい」と感想を述べる生徒が多くいた。学校で独自に開発したスポーツということもあり、競技中の仲間同士の活発な話合いや試行錯誤のプレーなどにより、主体的に活動する交流となった。

交流の展開例

児童・生徒の活動

はじまりの会

準備体操

デモンストレーション

交流風景

表彰式

教員の支援及び配慮事項

○はじまりの会
・交流担当の教員が進行するが、生徒もデモンストレーションなどで新しいスポーツの紹介をする。

○隊形について
・最初の隊形は班ごとに並べるようにあらかじめ隊形を決めておく。

○デモンストレーション
・教員が手本を見せ、説明は本校生徒が行う。
・初めて体験するスポーツのため、良いプレーなど具体的に提示しながら説明する。

○交流場面
・チームごとにキャプテン、チーム名、投げる順番を決める。
・全体進行は審判員が務める。
・チームごとに練習ができるように時間配分を工夫する。
・最後に、今後の交流の充実を図るため、交流校から感想を聞く。